

対魔忍

AAAAAAAAAAAAA

新咲 葉月

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

姉とは違い対魔忍の才能が全く無い秋山達郎は幼い時から奇妙な夢を見ていた。そ
して夢の中の物語が終わつた時！達郎は己の運命を知る！

達郎「よくも、こんなか弱い女の子を…ゆ”る”さ”ん”！」

対魔忍「ええ…？」

ノマドくん「こつちくんna！」

だいたいこんな感じ。

友人曰く原作での達郎君の扱いが余りに可愛そうらしいので、そんなん気にならない
ようにしてみた。

目 次

凜子 「最近弟の様子がおかしいのだが。」

「秋山さんちのお手伝いさん」

6

その背中に、風を吹かせて。

11

現時点での設定集

19

ダーブラック世界の設定（のヒント）

凜子 「最近弟の様子がおかしいのだが。」

A B月C日

最近私の弟の達郎の様子が明らかにおかしい。

昨日も少しトイレに行くために達郎の部屋がある廊下を通つたのだが、達郎の寝言が聞こえてきた。

「信彦お” お” お” お” お” お” ツ！」

⋮信彦って誰だ？

D月E日

今日は朝から達郎がもの凄い勢いで何処かへ走り去つていった。

大声で「ゴルゴムの仕業かッ！」とか叫んでいたのだけれどどうしたのだろうか。

2 凜子「最近弟の様子がおかしいのだが。」

：何か急ぐ用事が有つたのだろうか？
あと、ゴルゴム？ つて何だろう。

F月G日

達郎がようやく帰ってきた。元気に「姉さん ただいま！」という声を聞くととても安心できた。

：ただ服装がおかしい。

明らかに達郎が普段は着ない、どこか昭和チックな服装をしていた。
何故そんな格好をしているのか聞いてみると、

「実はゴルゴムの手先と戦っている最中に着ていた服をダメにしてしまってな！ 助けた優しい女性にプレゼントしてもらつたんだ！」
ということらしい。

：だからゴルゴムって何？

H I月 J K日

いつもの様に達郎が何処かへ行つてしまつたようだ。

せめて何処に行くのか教えてくれれば安心できるのだが、聞く前に走り去つてしまうので聞こうにも聞けない。

帰つた後に聞いてみても「ゴルゴムの居場所だ！」としか答えてくれない。

どうしたものか。

#月／日

今日は達郎が緑色のバイクに乗つて帰つて來た。

そのバイクはどうしたのか聞いてみると「俺を助けるために世界を越えて來てくれたんだ！」らしい。

……ふむ。つまり——

どういうことだ？

☆月b日

休暇も終わったので対魔忍としての活動を再開した。

しかし任務を終えた後、他の対魔忍達が変な話をしていた。終わつたとはいえ、一応注意しようと思ったが、興味が出たので気にしないことにする。

なんでも最近、対魔忍の間で敵に捕まつたりやられそうになると黒い魔族？である「仮面ライダー」が助けてくれるらしい。

単なる噂話だろう。

：仮にそんな魔族が居たとしても、対魔忍を助ける理由が解らない。

そもそもだ、そんな事をしていたら仲間の魔族から消されるのではないだろうか？

まあ、私には関係の無い話だろうが。

&月j日

不覚にも敵の魔族に捕まつてしまつた。

豚が下劣な言葉を使う中、どこかで見たようなバイクが壁を豪快に突き破つて魔族と私の間に強引に入り込んできた。

そして叫ぶ、名乗る、敵を流れる様にワンパンして爆破→瞬殺…やはり意味がわからん。助けて貰つたということは分かるが何故場所がわかつたのか?いや、それ以前に:何かアレに関して深く考えない方がいい気がしてきた。

「秋山さんちのお手伝いさん」

キングストーンフラツツ!!!

無言で仲間である筈のオーク達が一瞬で蒸発する姿を観賞する。

：きつと私の顔を鏡で見れば目が死んでいるのだろう。

「ほたるちゃん！・安心してくれッ！俺が必ず地球の平和を守つてみせるツ！」

ビシイツ！とポーズを決めた黒いアレが話しかけてくるが耳に入つてこない。というかもう倒したんかい。早すぎだろテメー。ざつと50人くらいはいたんだぞ？頭おかしいだろがオイ。

ああ：お腹が痛い。胃がキリキリする。

つーか、なんで私は未だにコイツと一緒に居るんだ？

：あ、そつか。コイツの家を襲撃したからかあ。

この惨状を目にしながら私は事の発端である三週間ほど前の出来事を思い出すことにした。

（回想シーン）

私は上司の命令を受け対魔忍の秋山凜子が住む武家屋敷に襲撃に来ていた。

普通対魔忍の拠点など襲撃するのは色々とデメリットが大きすぎる…だが！この時間帯には脅威である対魔忍の秋山凜子は居ない

——そう！この作戦の本命は秋山凜子の弟である秋山達郎を人質として攫うことにあるつ！

クツクツク！対魔忍が溺愛する弟を取り戻そうと必死になつて向かつてくる姿を想像すると笑いが止まらんわ！

姉とは違い対魔忍の血を引いていながらその才能の一切を持たない一般人：つまり雑魚だ！

今まで護衛なんかが邪魔だつたが今日この時は違う！

休みかなんかは知らんがこの日は襲撃における絶好のチャンス！逃す手はないのだ

！

これから起きる悲劇に想いを馳せながら部下達に先行させる。

：まずは様子見だ。雑魚であろうと用心するに越したことはない。

だが、やはり良いものだな：愉悦を感じながらその時を待つ：そして、ターゲットで

ある秋山達郎を見つける…どうやら庭で洗濯物を干しているようだ。晴々とした笑顔を浮かべているせいか、男なのにエプロンと三角巾が妙に似合っている。

その平和な光景を壊すように目の前の茂みから堂々と武装した部下達が姿を現わす。ククク、さあ！悲鳴をあげるがいい！

「誰だお前達は！」

「ぶ、ブへへへ、ちょっとオデと一緒に来てもらいまひよか？」

数人の怪人達に囲まれた秋山達郎は

困惑しながら状況を確認するために目を動かす。

【その時達郎の目は確かに捉えた！醜い怪人達に囲まれながら静かに助けを求める少女の姿を！】

【敵が何者かは分からぬ、だが！達郎が持つ熱い正義の心が立ち向かう事を決意させた！】

「そんなか弱い女の子を…よくも…」

「ん？今か弱い女の子って言つた？もしかして私のことか？」

あいつ何か勘違いしているんじやあーー

達郎は怒りを潜めながらエプロンと三角巾を脱ぎ捨て、静かに立ち上がる。

「貴様ら……ゆるさるん！」

え？ ちょーー「変身！」

凄まじい眼光を敵に向けながら達郎が叫ぶ。

達郎の腹の上に赤い光を放ちながら銀のバツクルが現れ、中央の赤い石が白い光を点滅させる！

そして一瞬達郎の頭部がバツタの様な仮面になり、余計な部分が削ぎ落とされ” 黒い” 胸に文字が刻まれた。

オーラを踏みつけながら少し離れた場所に跳躍し振り向く。

「仮面ライダー：BLACK！」

そこにいたのはバツタの様な見た目に黒いボディを持つ戦士、仮面ライダーBLACKだった！

…。

え。何アレ？変身？

今さりげなくオークを蹴り殺さなかつた？

頭の中で疑問符が増えまくる。

いや、あり得ないだろがオイ。オーカだぞ？確かに見た目は肌緑色で気持ち悪い。だが、いくら生殖猿と蔑まされようとも魔界で一般兵として使用されていることからわかるように、彼等の体はある程度の防御力を持つている。例え対魔忍でも蹴り一つで瞬殺できるものではない。ましてや一般人であれば尚更のこと。

いや、なんなんだ：コイツ?!?!

「君ツ！大丈夫かツ！」

あ、混乱している間に部下達全滅してら／＼（^。o^）／オワタ。

その後放心しているうちに孤児か何かと勘違いされたのか住み込みで働くことに：どうしてこうなつた？

その背中に、風を吹かせて。

とある山の奥にその探偵事務所はあった。

「あきやま、たんてい、じむしょ…やつた！見つけた！」

古い木造建築の建物を改装して出来た建物の看板に書かれてあるのは「秋山探偵事務所」。ちゃんと子供でも読めるように漢字の上に平仮名で読みが書かれている所に、店主の性格が表れている。

しかしこの探偵事務所、探偵事務所と一応書かれているが、その実態は正義の味方（ガチ）が住み着く拠点である。

訪ねてきたのは、頭に些かサイズが合っていない青いリボンの麦わら帽子を被つて、肩に茶色の鞄を掛けている白いワンピースを着たショートボブの茶髪を持つ幼い少女だ。

一階と二階に分けられているらしく、建物の左側にある階段を登り、スライドするタ イプの扉を小さな手で叩く。

「すいませーん！・誰か居ませんかー？」

少女が店に向かつて呼びかけてから暫くすると、中からのろのろと、1人の少女が出

てきた。

その瞳は引き込まれるような桃色で、黒を基調としたピンクの水玉模様が散りばめられ、白いフリルが付いているパジャマを着ていた。

つい先程まで幸せに眠つていたようで、その顔には未だに眠気が残つており、右手で頭を押さえている。

「はいはい、つたく、何だよ朝っぱらから……ん？」

その店員？らしき桃色の瞳を持つ少女は扉を横に滑らせ開け終えると、目の前にいる柔らかそうな茶髪の少女の姿を確認すると、急に不機嫌そうな顔になり黙る。

「…………」

「…………。」

「あ、あのっ！おねいさん！わたし、依頼をしに来ましたっ！」

「…………なんだ、客か。取り敢えず入れ。」

少女が恐る恐るといった感じで目の前の店員らしき人物について行く。

（綺麗な人だなあ）

赤い小さな果実の髪留めで二つの房に別けられた、所謂ツインテールの髪は、まるで絵の具の黒色をそのまま移したかのような色をしているのに確かに輝きと美しささえ感じる艶があり、その下に存在する貌も未だ残る幼さを気にさせることのない端正なソレ。

目はつり上り、その端整な顔はしかめつ面をしているが、その中にある薄い桃色の瞳はピンクサファイヤのように輝いている。

そして、その肌はまるで――冬の月みたいに白くて。生氣があるのに…見ていて何故だか、死の気配を匂わせた。

(ちよつと怖いけど、わたしが付いてこれるようにゆっくり歩いてくれてるし…実は優しい人なのかな?)

ポーっと幼い頬を朱色に染めて見つめていると、先導していた少女の足が、白い襪の前で止まつた。

「おーい、家主さんよー。客を連れてきてやつたぞー?」

桃色の瞳を持つ少女は襪に向かって話しかけるが、中からは返事は無く、シーン…として黙っている。

「チツ、返事がねえな…寝てんのか？」

襖を開けてもやはり部屋の中にはいないようだ。何もない日はだいたい此処にいるはずなんだが…。

「あの、もしかして、いないんじや…」

「……はあ。…心配すんな。家主が居なくとも、依頼はちゃんと受ける。」

少女が不安そうに話しかけると、桃色の瞳を持つ少女は面倒くさそうにしながら、入つて直ぐに見える右側の壁際に掛けられた（家主自作の）ミニ黒板を見る。

「…なるほど。」

「おねいさん、何か分かつたの？」

「ん？ ああ。どうやら此処の家主は今、仕事中らしい。」

桃色の瞳を持つ少女は部屋の窓を開けて外にある駐車場の端を見ながら家主の不在を話す。

此処の家主はどうやら中古屋の依頼を受けて、日本どころか海外の物品を取りに行つているらしい。

どうやつて…その答えは駐輪場にいつも居座つている筈の

緑のバイクが無くなっていると言えば大体察してもらえるだろうか。

「…それじゃあ、その家主さんが帰つて来るまで待つておけばいい？それとも、一旦帰つたほうが——」

「いや、私が依頼の内容を聞いておく。：不本意だが私も一応こここの従業員らしいからな。」

「ぐうッ！

「ありがとう、おねいさん！」

「お、おい！急に抱きつくなよっ！」

パジャマを着たままだと気づいた桃色の瞳を持つ少女は一度、着替えてから部屋の中にある山吹色のソファーに一人で座り、話を始めた。

「…なるほど。人探しか。」

「はいっ！わたしのお姉ちゃんを、探してきて欲しいんですつ！」

少女から聞いた話を簡潔にまとめるべく、3週間前から連絡が取れなくなつた少女の姉を探してきて欲しいという依頼だつた。

「ところで、お前の親はその姉さんを探さなかつたのか？」

と桃色の瞳を持つ少女が問うと、少女——コマリは顔を暗くして下に向けた。
「……わたくしたちのお母さんと、お父さんは、わたしが小さい頃に交通事故にあつて、それでふたりとも居なくなつちやつたんだつて。……おばあちゃんがそう言つてたの。」

コマリに、桃色の瞳を持つ少女——ほたるは何か声を掛けようとするが、静かに開いた口を閉じ、ぎこちなく少女に謝る。

「……嫌なこと言わせて、悪かつたな。」

「——ううん、別に気にしてないよ！お姉ちゃんも、おばあちゃんも居るしつ！」
「……そつか。お前、ガキの癪して強いんだな。」

「でも、わたし、おこづかい少ないから、お金をあんまり払えないかもしれない……。」
コマリが泣きそうな顔になり下を向くと、ほたるは安心させるようにニッと口角を上げた。

「ふーん。じゃ、お前が被つてるそのぶかぶかの麦わら帽子、

——それを私によこせ。」

「え？でも、これ、お金じゃないし、おばあちゃんが外は暑いからつて、被ってくれた、

安物だし…。」

「——お前、ワ○ピース知つてるか?」

「⋮チ○ツパーが出るアニメだよね?」

「お、ちゃんと見てるんだな。⋮実はな、私はル○イみたいな海賊に憧れてたんだ。だから麦わら帽子をかぶらねえといけねえ。」

「そうなの?」

「ああ、そうなんだ。⋮だからお前は安心して家で姉さんを待つときな。」

コマリから受け取った帽子を被り、目元を隠す。

そしてミニ黒板に、家主に伝える文章を書き込むと、静かに立ち上がり、事務所を出て行く。

そして、麦わら帽子を被つた少女は静かに呟く。

「待つてな、直ぐに見つけてきてやる。」

18 その背中に、風を吹かせて。

少女は向かう。

——「ちよつと大切なモン、探してくる。」

黒板に書かれたその宣言を、現実にする為に。

現時点での設定集

▽ 秋山 達郎

性別：男

年齢：作者が原作未プレイの為把握していない。誰が教えて（泣）

詳細：本作の主人公。

姉に秋山 凜子がいるが、原作と違い対魔忍としての才能が一切無く、幼少期は周囲の人間から優秀な姉と比較される毎日を送っていた為、せめて家の逸刀流だけでも……と、現実逃避にも似た強迫観念によつて鍛錬に励んでいたが、ある日を境に奇妙な夢を見始める。

本編開始時点で夢の中の「南 光太郎」の追体験を終えた事で「仮面ライダーBLACK」に変身出来るようになつた。

原作のヒロイン「水城 ゆきかぜ」とは何度か顔を合わせた程度で恋人でもなんでもない。強いて言うなら妹的存在程度には思つてはいるようだが……？

▽バトルホツパー

性別：どっちだと思う？

年齢：まずバトルホッパーが生まれたのつていつなんだろう。解らん。

詳細：本作のメインヒロイン！通称：てつをの嫁であり、実質てつを専用バイク！（詳細は省く）。原作では萌えキャラとしても人気だぞ！

主人であり、相棒でもあるBLACKを次元を越えて助けに来た。自我があるが、現時点では緑と黒の状態なので基本的に無口。

口には出さないがBLACKとほたるが会話をしているといつも何か言いたそうにしているようだぞ！

▽ほたる

初登場時のラフ画：

性別：女

年齢：特に考えてなかつたけど13歳程度で良いんじやね？知らん。

詳細：本作のサブヒロイン？的存在。原作を知っている人なら本名が分かるかもしない。

本作の物語において重要なカギとなる人物の一人。

元々は上司の命令を受けて凜子をおびき寄せる為のエサに達郎を誘拐しようとしていたが逆に拐われてしまう。

現在は色々あつて、達郎のサポートをしている。

ちなみに上司は育ての親的存在で、今回の命令を受ける5年前からの記憶を失っている。

上司からは養子だとしか聞かされていないようだが……？

▽ほたるの上司

性別：現時点では不明。

年齢：現時点では不明。

詳細：ほたるの上司であり、保護者の存在。ノマドでもそれなりの地位にいるようであり、ほたるに対して愛情だけでなく複雑な感情を持つているようだが……？
ちなみにオリキヤラではない。

▽秋山 淩子

性別：女

年齢：達郎と同様に作者が原作未プレイの為わからない。誰か教えて：。

詳細：達郎の姉で対魔忍をしている。青い髪のめつさ美少女で、本作では未登場のゆきかぜとも仲が良い。最近達郎の様子が変わっていることを気にしているようだ。

▽とある怪人

本編未登場で影も形も無いが非常に重要な役割を持つ。

▽暗黒結社ゴルゴム

詳細：創世王とか言う奴の犬。悪いことが起こるのは大体コイツのせい。一応達郎のいる世界にもゴルゴムの拠点はあるようだが……？

▽クライシス帝国

詳細・読者も気になつてているようなので一応載せておくが、現時点では影も形も無い。

▽秋山探偵事務所

達郎が（本編で書いていないが）とあるお嬢様を助けた事で建てられた。

探偵事務所と看板に書かれているが、「仮面ライダー」の活動拠点としての役割の方が大きい。ぶっちゃけ、偶に（週一あるか無いか）依頼を受ける程度で、探偵はやっていない。

中の部屋は結構広く、空き部屋もまだあるようだ。

閲覧注意！達郎が見た夢の中の仮面ライダーBLACK 世界の設定（のヒント）

■ ■ ■ ■ ■ 怪人／■ ■ ■ ■ ○

設定詳細：元々はゴルゴム側の怪人だったが、仲間の怪人に裏切られてしまい深い谷の底に落ちそうになるが ■ ■ ■ ■ ■ 怪人の助けを求める声を聞いた仮面ライダーBLACKに助けられ、その後は仮面ライダーBLACK／南 光太郎の味方をするようになつた。

（TV版の）原作時系列的に19話の時点でゴルゴムと密会後に光太郎達の前から失踪。その後、原作時系列の28話にて再登場。神官から欠陥品の「地の石」を受け取り、強化された姿で光太郎と杏子の前に現れる。

弱体化した仮面ライダーBLACKを追い詰めるが、杏子の機転により窮地を脱出。そして光太郎は ■ ■ ■ ■ ■ 怪人が苦しむ姿を見て、腕に取り付けられた欠陥品の地の石をライダーパンチで破壊。正気に戻った ■ ■ ■ ■ ■ 怪人と共にゴルゴムの精銳を倒すが、海岸にて「すまない、ライダー。俺にはやるべきことがあるのだ。」と光太郎に告げ、海の中に飛び込み、また

もや姿を消した。

原作時系列の32話にて仮面ライダーBLACKがゴルゴムと交戦中に杏子が人質に取られていることを知らされて動けなくなる中、仮面ライダーBLACKを助ける為に人間の姿で登場。

設定詳細2：人間態は、サングラスと革ジャケットを着用した30代の屈強な男の姿をしている。ちなみに人間態になつた理由は神官の地の石を奪つたからだとか。

戦うことはあまり好まず、どちらかといえば科学者寄りの怪人。

とはいえ、ゴルゴムから再利用された経緯を見ると戦う能力自体は持つているようだ。

人間態になつてからは■■ ■■■と名乗るようになり、光太郎の事も、「ライダー」ではなく、「光太郎」と呼ぶなどキヤラクター性において大きく変化した。それ以降は喫茶店キヤピトラの従業員として働くようなる。

設定詳細3：【該当する部分が未開放の為閲覧できません】

・【原作とは大きく違う点】

①味方側に■■■■■怪人／■■■■■がいる影響で、原作時系列の47話にて仮面ライダーBLACKの死後、秋山杏子と紀田克美は原作ではゴルゴムの魔の手を逃れる為に渡米しているが、■■■■■怪人が用心棒としての役割を果たしていたが為

に渡米していない。

- ②【該当する部分が未開放の為閲覧出来ません】
- ③【該当する部分が未開放の為閲覧できません】
- ④光太郎の恋人が上記の影響で秋山杏子になつた。
- ⑤■■■■■怪人が地の石を奪つて行つた為に、シャドームーンの復活が原作よりも少し遅れ、更に地の石の代わりにビシュムの命+欠陥品の地の石を使って復活した為、シャドームーンの意識が元の人格である秋山 信彦に戻りかけるシーンが多くなる。
- ⑥【該当する部分が未開放の為閲覧できません】